

## 平成30年司法試験 合格体験記

平成26年度修了（既修コース） 砥上 幸裕

10期既修の砥上幸裕と申します。読みにくい苗字で申し訳ありませんが、「トガミ」と読みます。私は3回不合格になったのち、この度4回目で合格することができました。

なぜこのように受験回数が増えてしまったのか。以下、失敗談が続きますが、後進に同じ轍を踏ませたくないとの思いからですので、何卒ご容赦ください。

私は入学当時から「あと2年しかない」と焦っていました。そのため、いわばオーバーワークをしてしまい、かえって成績が伸び悩んでしまいました。それが更なる焦りを生み、在学中はこうした悪循環に陥っていました。ここから脱却した時には試験日が残り3か月に迫っており、とにかく短答だけでも合格しようと論文対策を怠ってしまいました。

2年目は論文対策にも力を入れましたが、単に論点を覚えるだけの勉強になり、結果として答案も論点に触れたにすぎず、理解が伝わらないものになってしまいました。

そこで3回目は徹底的に論文を良いものにしようと、百選の解説や基本書を熟読することでの論点の正確な理解、規範と理由付けの正確な記憶（その為のノート作り）、予備校の講座を受講することでの加点ポイントの把握及び高得点の取れる書き方などの論文対策を猛勉強しました。しかし、今度は短答対策がおろそかになってしまい、短答式試験で不合格という不名誉な結果に終わりました。

上記の失敗を猛省し、4回目ではインプットとアウトプットのバランスをとること—具体的には、朝に短答の勉強をして、それ以降は論文の勉強をするという気付いてみれば当たり前のこと—で、なんとか合格することができました。

上記のような失敗があったにもかかわらず合格できたのは、ひとえに岡山大学法科大学院の先生方、諸先輩方が親身になって相談に乗ってくださっただけでなく、貴重な時間を多く割いて指導して下さったおかげであり、この御恩は一生忘れません。また家族や友人の励ましがなければ諦めていたかもしれないと思うと、感謝の念に堪えません。これからは、一流の法律家になれるよう更なる精進に励んで参ります。本当にありがとうございました。